

毛皮革製品



■ 毛皮革製品について ■

宇陀市は原革の鞣しから加工、縫製、販売まで一貫した製造・販売システムをもつ毛皮革産地。特に菟田野では扱う毛皮革製品は、レザーや鹿革、鳥獣の剥製にいたるまで幅広く、【世界の菟田野ブランド】として「品質ならどこにも負けない」という自信と、「伝統の灯は消さない」という強い信念が、奈良県の地場産業という形で認められています。



吉野本葛

■ 吉野本葛について ■

吉野本葛が製造されている宇陀市では、冬の身を切るような厳寒の中で本葛づくりが始まります。山方(やまかた)と呼ばれる葛堀り専門の職人たちが山奥より掘り起こしてきた葛根を碎き、清廉な井戸水を使って桶でひたすら清めていく「吉野晒し」という作業を、十日間で五回ほど繰り返します。清められた葛は次第に純白の澱粉となり沈殿していきます。葛精製には、空気も水も冷たいほど良く、本物の味をつくり出すために井戸水を使用し、また、創業以来ほとんど変わらない工程が純白であたかも結晶のような美しさを誇る本葛粉をつくります。葛根から取れる量が僅かなことから、その貴重さゆえ、本葛は「白いダイヤモンド」と表現されることもあります。



特
産品

大和茶



大和茶について

唐に渡っていた空海が帰朝する際、茶臼と茶の種を持ち帰り、堅恵が榛原の佛隆寺（嘉祥3年／850年創建）にて栽培して全国に広がったと伝えられており、大和茶発祥の地として有名です。茶の栽培に適した気候により、現在も宇陀市でつくられ、多くの愛好家達から支持されています。

特
産品

宇陀金ごぼう

宇陀金ごぼうについて

山間部の昼夜の温度差と粘質のある土壌で育った、やわらかく香り高いごぼうです。雲母を多く含んだ土壌で栽培されるので、キラキラと光ることから「金ごぼう」と呼ばれるようになり、縁起物ともされています。





ダリア



ダリアについて

「夏の涼しい自然条件を利用して、花の栽培をしよう」と、故津田重三氏が昭和25年に地元の人々とダリアの栽培を始めました。栽培に加え品質改良の取り組みや新品種を独自に生み出し、現在ではじつに年間70万球を生産するまでに至りました。



磨き丸太

磨き丸太について

宇陀市の大半が山林ということで林業は市の主要産業でした。近年、外材の需要拡大によって国内林業が厳しさを増していますが、とりわけ床柱に使われる磨き丸太は品質もよく、今も変わらない伝統と技術で生産されています。

